基礎老化研究 46（1）; 53, 2022

【学会見聞録】

日本基礎老化学会　第２回市民フォーラム・第 42 回シンポジウム見聞録

佐藤　綾美
東京都健康長寿医療センター研究所　老化制御研究チーム

新型コロナウイルスの流行第５波が収束した頃、2021 年 11 月 27 日に日本基礎老化学会 第２回市民フォーラムが山陽小野田市民館で開催された。私は、上司である石神先生に同行して参加した。約２年ぶりに飛行機に乗り、再び遠出できるようになったウィズコロナ時代の変化に喜びを感じた。開始前、今回の世話人である嶋本先生から、定員を超える参加の応募があったと聞いて驚いた。市の“スマイルエイジング”企画への取り組みの熱心さと市民の健康意識の高さが上手く一致している。共催の市立山口東京理科大学の貢献も大きいのだろう。

市民フォーラムは、「人生 100 年時代の健康意識」をテーマに４名の先生方がご講演され、栄養・精神・運動・免疫の分野から健康長寿へ向けたお話をされた。休憩時間には、山陽小野田市民体操の動画が流され、市民の皆様がとても生き生きと体操をしていたのが印象的だった。会場の一体感を乱さないよう、私も羞恥心を捨ててぎこちない動きで加わった。また、「With コロナ時代の笑顔で年を重ねる秘訣を教えます」をテーマにしたパネルディスカッションが盛況に終わった（写真 1）。

写真１．パネルディスカッションの様子
司会：嶋本先生
登壇者：（左から）清水先生、中川先生、
町田先生、丸山先生

夕方、学会懇親会に参加した。今年学会員になったばかりの私は、挨拶も兼ねて多くの先生方とお話させていただき、親交を持てた。一方、アクリル板の仕切りで声が聞き取りづらく、目上の先生に何度も聞き返してしまったことは、この場を借りてお詫びしたい。

翌日 28 日に、日本基礎老化学会 第 42 回シンポジウムが山口東京理科大学で開催された。会場に向かう朝の宇部新川駅では、車両が１つだけの小野田線ワンマン電車に 10 名の学会員が乗り込んだ（その電車を逃すと次は３時間以上ない）。私にとっては、著名な先生方と一緒に田舎で電車に揺られるという貴重な時間を過ごすことができて嬉しかった。電車での石井先生との会話から、この寄稿文の執筆に至っている。

本シンポジウムでは、「大学が推進する基礎老化研究 in 西日本」とテーマを掲げ、広島大学、熊本大学、山口大学、山口東京理科大学の９名の先生方がご発表された。オンラインとのハイブリッド開催だった。動物学から細胞生物学、分子病態学、免疫学等、多面的な分野からの基礎老化研究の進展を拝聴できた。どのお話も大変興味深く、老化研究初心者の私にとっては勉強になることばかりだった。そして、先生方の研究への姿勢にとても刺激を受けた。その熱気を肌で感じることができるのも、オンサイト参加の利点だろう。東日本も負けてはいられない。

正直、特に役割のない私は今回オンライン参加でも良いだろうと考えていた。しかし、現地に行って、楽しい思い出、知識と経験、そして人脈が増えた。行って良かった！と心から思っている。このような有意義なイベントを開催いただいた嶋本先生を始め、スタッフ他関係者の皆様に深く感謝したい。

写真２．山口東京理科大学内にて澁谷先生と
（石神先生撮影）

連絡先：佐藤　綾美
〒 173-0015　東京都板橋区栄町 35-2
TEL：03-3964-3241
E-mail：ayamis@tmig.or.jp